

全国理工系学芸員展示研究大会の実施について

小野 昌弘*

概要

大阪市立科学館を管理運営する財団法人大阪科学振興協会の下に中之島科学研究所がある。この研究所の主催による、第1回全国理工系学芸員展示研究大会を2011年2月9・10日に開催した。これは、全国の理工系博物館の学芸系職員が展示の製作を中心に話題提供・意見交換を行うことを目的として実施したものである。ここでは、その実施内容について報告する。

1. はじめに

全国理工系学芸員展示研究大会は、大阪市立科学館を管理運営する財団法人大阪化学振興協会の研究組織である中之島科学研究所と、理工系学芸員会議が主催し2011年2月9・10日に姫路科学館を会場に開催された。

全国12施設から20名の学芸系職員が集まり、展示についての事例研究を発表した。

2. 事例発表

本研究会では、初日にパネルディスカッションを開催し、姫路科学館で取り組んでおられるロボット推進事業に関わるパネラー2名から「先端技術のわくわくを伝える！」と題して、話題提供をしていただいた。

また、今回の研究大会では、各館に訪れる来館者の低年齢化が実感・懸念されるということで、「来館者の低年齢化に伴う理工系展示のあり方」というテーマで5例の研究発表を行った。

各研究発表のタイトルと発表者は、以下の通りである。

◆発表(1)

「正しい(?)展示の壊され方 -館内製作した幼児体験装置の改良記録より-

久松洋二(愛媛県教育委員会)

◆発表(2)

「「おやこで科学」フロアの導入とその効果について」

石坂千春(大阪市立科学館)

◆発表(3)

「明石市立天文科学館のリニューアルについて」

井上毅(明石市立天文科学館)

◆発表(4)

「幼児向けコーナーのない館での低年齢化対応」

市川真史(富山市科学博物館)

◆発表(5)

「幅広い年齢層への対応を目指した展示デザイン -見学オリエンテーション-

吉岡克己(姫路科学館)



写真 1. 研究発表の様子

本研究大会では、主に展示製作に関わる学芸系職員が集まり、それぞれの館の実情に合わせた展示製作や来館者への展示サービスの話題提供を行った。

そこでは普段あまり知ることのできない各館での取り組みが良くわかり、意見交換でも活発な質疑応答が繰り広げられ、大いに刺激になる発表会であった。

*大阪市立科学館
ono@sci-museum.jp

3. まとめ

本展示研究大会は、2 日間に渡り開催され、熱い議論や討論が行われたが、これは、現在の理工系博物館同士、主にここでは、科学館のことであるが、でのこのような展示についての情報交換を行える場が少ないということの裏返しであることも浮き彫りとなった感がある。

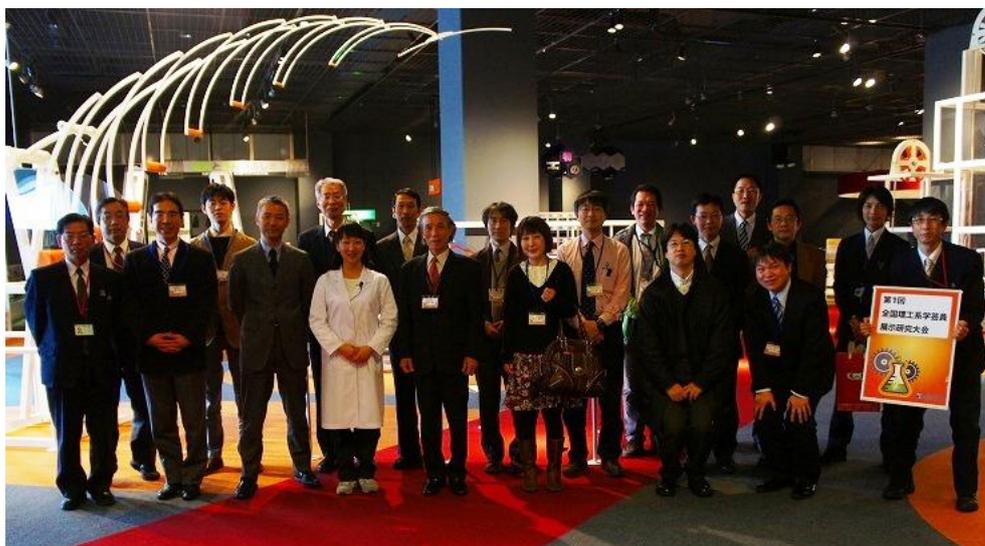
全国的に博物館における学芸系職員の不足は、今に始まったことではないが、この数年特に状況が悪くなっている。特に、指定管理者制度の導入により、長期にわたる学芸系職員のポジションが、数年で置き換わる契約職員であってがわれていることもあり、それまで培ってきた展示技術のノウハウを後代に伝えられない、また伝えても、その後に伝えてもらえないなどの深刻な状態に陥っている。

このようなことに対処できる組織として全科協などが存在するが、理工系以外にもたくさんの種類の博物館が存在するため、専門的な話題や展示研究の共通認識をもった上での議論を深めることがしにくいことも否めない。そのためこの全国理工系展示研究大会は理工系博物館には大きな意義を持つことを実感できた。

今後も、本研究大会を継続実施し、展示のあり方などを問い続け、国内の理工系博物館のレベルアップを図る一助になればと考えている。

4. 謝辞

本展示研究会を開催するに当たって、姫路科学館の皆様には大変お世話になりました。特に展示係長の吉岡様におかれましては、大会の準備、式の司会進行、発表まで多岐に渡りご尽力していただき、会が大成に終わりました。改めて御礼申し上げます。



大会参加者集合写真